



星野・大坂ニュース

第 8 号

2026年1月5日

◇編集・発行／無実の政治犯 星野さん大坂さん全国救援会
◇連絡先 〒105-0004 東京都港区新橋 2-8-16 石田ビル4階
◇TEL 03-3591-8224 FAX 03-3591-8226 ◇Email : hoshinoosaka@gmail.com ◇ホームページ http://fhoshino.u.cnet-ta.ne.jp/

◇頒価 200円 ◇毎月1回 第1月曜日発行 ◇会費 年間 3000円
◇振替口座 (ゆうちょ銀行) 00140-7-635858 (星野・大坂全国救援会)



高市政権打倒・大坂奪還へ年頭から渋谷で反戦デモと街宣 (1月3日)

2026年を大坂奪還の年に 万余の署名で裁判勝利へ

アメリカによるベネズエラ軍事侵略は正月気分を完全に吹き飛ばしました。大坂正明さんが「中国侵略戦争は26年に繰り上がることもありうる」と危機感を持つ訴えているように、今年には反戦闘争にとって決定的に重要な一年になります。

昨年12月24日の星野国賠控訴審は、星野さん虐殺を傲然と居直る国の意見書提出を受け、裁判長が審理継続を宣言する大反動となりました。中国侵略戦争に突き進む高市政権のもと、星野・大坂闘争は大きな岐路に立っています。高市打倒の絶対反戦の闘いを貫き、総力を挙げて闘いぬく一年にしましょう。

救援会は年頭から渋谷反戦デモ、渋谷駅前街宣、そして東京拘置所包囲デモを闘いました。昨年来の救援会の統一と変革の闘いをさらに大きく発展させよう。民衆の力を組織し、2026年を星野国賠勝利、大坂さん解放の勝利の年にしよう。

星野再審闘争の前進を阻んできた制度的障壁を取り払われる。そうした期待を抱かせた再審法の改正論議が、冤罪被害者の救済に逆行する改悪になりかねない危惧が強まっている▼再審制度の改正論議は60年代から始まっていたが、機運が高まったのは2024年確定した袴田事件の再審無罪からだ。ポイントは大きく二つ。①検察の手にある証拠を裁判所が開示させる規定、②再審開始決定に対する検察の不服申し立ての禁止。再審を開くかどうかの争いが長期化し救済を遅らせた。これらはいずれも星野再審闘争の前進を

星野再審闘争の前進を阻んできた障壁であり、弁護団が証拠開示を強く訴えてきたことは周知の事実だ▼いま議論と法案は二つのルートで行われている。一つは国会で超党派議連が上の①、②の線で法案を作成し、6月に法案を提出したが、今国会では審議入りできなかった。もう一つは政府案で法相の諮問機関である法制審議会が25年4月から議論を開始した。問題はここでの議論の方向が議連案と逆行して「証拠開示範囲を再審請求理由に制限、再審請求迅速調査後迅速棄却化、検察不服申し立て維持」となっていて冤罪被害者を救済するという原点を見失った議論になっていることだ。今後の二つの法案の行く末に鋭意注目を。



星野国賠全国運動
呼びかけ人 金元重

今月の紙面

新年あいさつ 共同代表	… 2
1・3渋谷反戦デモ&大坂街宣	… 3
新年あいさつ 大坂弁護団・星野弁護団	… 4
大坂正明さん新年メッセージ	… 5
12・24星野国賠控訴審第2回裁判報告	… 6
埼玉救援会の闘い/絵画展 兵庫	… 7

救援会共同代表の年頭あいさつ

救援会こそ高市打倒の先頭に

星野・大坂全国救援会共同代表 浅野健一



昨年10月、絶対に首相にしてはいけないと言ってきた極右・対米隷従の高市早苗氏が「初の女性の自民党総裁・首相」に就任し、11月7日、「台湾有事は存立危機事態」と对中国開戦布告宣言を発し、尾上定正首相補佐官が12月18日、記者団に「核武装必要論」をぶち上げて迎えた新年です。

戦争と腐敗の高市倒せ

排外主義の高市氏は、壊憲、非核三原則の撤回、スパイ防止法制定を公然と狙っている。

私は昨年10月28日から始まった安倍襲撃事件の山上徹也さんの裁判員裁判を、12月18日の結審までの15回の全公判を記者席

で取材しました。裁判で、安倍

自民党が6年にわたって反共の統一協会・国際勝共連合と一体だった過去が暴かれました。韓国のハンギョレ新聞は昨年末、統一協会の元会長が本部に提出した文書で、教団が280人の自民党議員を支援したと報じています。高市氏の実名が32カ所にあります。腐り切った高市自民党を許すことはできません。

私は2月に『自民党は今すぐ解散せよ』安倍襲撃事件の真相山上徹也さん裁判傍聴記』を緊急出版します。自民党の解体・解散を人民のスローガンにしましょう。

法廷外の闘争を強化し

星野・大坂闘争勝利へ

権力は軍事費倍増と安保3文書改定を前倒しで決め、戦時体制を構築しようとしています。

安倍晋三氏を師と仰ぐ高市戦争政権を打倒し、対中戦争を阻止

するための総決起が欠かせない政治状況の中で、国家権力による無実の星野文昭さんの虐殺の真実を明らかにする国賠訴訟と、星野さんと共に沖縄闘争を闘い今、東拘の中で無実を訴えている大坂さんの、それぞれの控訴審裁判が本格化します。

昨年12月24日の星野国賠控訴審第2回弁論では、国側が「医療センターは最善を尽くした」

運動の力で裁判所を追い詰めよう

星野・大坂全国救援会共同代表 狩野満男



2026年の幕が開きました。歴史を画する岐路が眼前に迫っています。最大の焦点が明確に

対中国侵略戦争に絞られました。アメリカの国家安全保障戦略では中国に対する戦争宣言が曖昧さなく示されています。その中身はまさに古典的ともいえる露骨な帝国主義そのものの姿です。アメリカ自らの手で戦

とするインチキな医師の意見書を提出し、官僚裁判官は「国の意見書を踏まえて判断する」として「さらなる審理を行う」と決めました。法廷外の裁判所糾弾の行動が必要です。

民衆の闘いと連携しよう

大坂さんの二審初公判も始まりです。大坂さんは「政治闘争での社会変革なしに刑事裁判の

勝利はない」とずっと訴えています。

二つの重要な裁判を支援する私たち全国救援会の闘いは、復活しつつある大政翼賛会・高市権力を打倒する闘い、反戦反核運動と固く連携しなければなりません。大坂裁判の1万人署名を実現することが当面の目標です。渋谷闘争の意義を再確認して裁判闘争を闘い抜きましょう。

民の力で打ち倒す時の到来です。

日本全体が軍事要塞化するなか、「沖縄を戦場にするな」の声を戦争情勢の深まりのなかでさらに緊迫しています。沖縄、琉球弧を攻撃の最前線とすることが公然と米日の戦略に位置づけられました。私たちは71年渋谷闘争の歴史的意義を運動の柱に据え、沖縄の反戦、反基地闘争と連帯し闘ってきました。昨年、

沖縄闘争の歴史とともに

米帝ランプによる対中国侵略戦争は日本帝国主義・高市政権によって実質的に口火が切れ、急加速しています。いま戦争に對置するのは「平和」ではなく「絶対反戦」しかありません。戦争を必要とする国家を人

星野さん大坂さんを一体で闘い、何としても大坂さんの奪還、解放を勝ちとるための運動の転換を勝ちとりました。

いま、大坂さんの存在とたたかいはこの情勢の中で力を発揮しています。戦争に対する沖縄の猛然たる怒りと闘いは私たちが

(次ページへ続く)

星野・大坂の勝利へ走り抜こう

星野・大坂全国救援会 共同代表 星野暁子



あけましておめでとございます。昨年一年走りぬきました。今年も年女です。体調を崩さぬように注意しつつ、走りたいと思います。皆様方にとっても幸多き一年でありますように。

運動の力で国賠一審勝利

昨年3月24日、5年間闘ってきた星野国賠訴訟で、一審勝利判決を勝ち取ることが出来ました。国家賠償請求訴訟であると同時に医療過誤裁判であるという二重に難しい裁判で勝利できた時は、うれしかったです。しかし、星野文昭を殺した徳島刑務所の責任を認めない判決に対して控訴し、被告・国も控訴しました。

その中で、5月には星野と大坂の二つの救援会が一つになり、無実の政治犯 星野さん大坂さん

ん全国救援会が発足しました。それ以来、大坂さん無罪奪還と星野国賠完全勝利を目指す闘いは、高市戦争政権を打ち倒す闘いと一体で前進してきました。

星野虐殺居直る国の意見書と高裁の不当な求釈明許せない

12月24日、控訴審第2回目の裁判は結審とはならず、裁判所から原告、被告に釈明を求めるといふ異例の展開になりました。被告・国が12月17日に提出した意見書を書いたのは、防衛医科大学校を卒業後、自衛隊福岡病院に勤務し外科部長まで勤め、現在は福岡刑務所の医務部長という経歴の人物です。

意見書は、文昭の救命は不可能で、再開腹止血術の機会はなかった、だから東日本成人矯正医療センターに文昭の死の責任はないと主張しています。怒りに震えます。

一番の証人尋問で原告側の専門医が「再開腹の準備は1時間あればできる」と言ったことに対し、被告・国が「大病院では

(前ページ下段続き)

の運動を激しく鼓舞しています。何としても大坂控訴審開始に向けて1万人署名を勝ちとりたいと思います。

そして星野国賠控訴審の反動攻撃を打ち破り、星野、大坂控

できて、医療センターのような普通の病院では不可能。手術を終えるのが真夜中になってしまい、手遅れだった」と、とてもないことを言っています。専門医は、文昭を救命するには一分一秒を争う事態になっており、そんな悠長なことを言っている状況ではなかったと怒りをもって弾劾しています。『医療判例解説』で書かれている通り、術後管理のイロハのイから誤っていたことを自ら証明したので

裁判所は、原告側と国側にそれぞれ質問を出し、次回期日を指定しました。本格的な闘いが始まります。絶対に負けるわけには行きません。

星野文昭の控訴審と大坂正明さんの控訴審は、一体のものであり、中国侵略戦争を阻止する反戦闘争の一環としてあります。大坂解放1万人署名を集め、一体に闘い、勝利しましょう。

正月に渋谷を反戦デモが席巻 街宣で大坂解放署名60筆集まる

1月3日、救援会は渋谷駅ハチ公前で中国侵略戦争阻止、高市戦争政権打倒、無実の大坂さん解放を訴える大街宣を行いました。改憲・戦争阻止！大行進が主催する渋谷反戦デモもうち抜かれ、正月の渋谷を反戦の訴えが席巻しました。

デモに先立って行われた集会



高市打倒訴え 150人が渋谷をデモ行進

訴審闘争を昨年以上の高裁包囲デモ、街宣を積み重ね「裁判所が裁判所でなくなる」まで追い詰めていきたいと思っています。

いま、街頭では大坂署名が架け橋となり、沖縄の戦場化への強い反対と反戦闘争への合流が

始まっています。闘いの方針は鮮明です。大坂闘争を絶対反戦の軸に据え、控訴審での事実調べを勝ちとり、無罪奪還勝利しましょう。星野国賠控訴審に勝利しましょう。

2026年勝利の年へ！

では大坂さんの年頭メッセージ(5面掲載)も紹介され、「今年には牢に満つるとも絶対反戦で闘い抜く年だ」と1500人が戦争阻止の決意を固めました。

街宣には約50人が参加し、正月の人波に負けない訴えで60筆の署名が集まりました。



ハチ公前広場で大坂解放訴え署名集まる

闘いの2026年を迎えました

大坂裁判弁護士 山本志都弁護士



不思議なもので、同じ夜なのに大晦日の夜があけると、改めて決意を表明したい気分になる。2026年がやってきた。

も。今年の通常国会で国家情報局や国家情報会議を創設して、本年中にスパイ防止法の議論を始めることも言明している。全て戦争という一つの目的に向けてこんな中で迎える新年だ。

全力で控訴審闘う

大坂さんの地裁判決からは2年がたった。1年2カ月前に控訴趣意書を、その後検察官答弁書に対する反論も提出した。高

裁での公判の日程は決まっていないが、今年中に始まることは間違いない。

地裁判決の核心は、裁判所でなされた証言に依拠することができず、密室で検事が作成した少年たちの検察官調書の証拠能力を認め、それに基づいて事実認定をしたことである。長時間の過酷な尋問、殺人罪起訴との脅し、親族を使った切り崩し、弁護人との切り離し、警察・検察の連携など、公安警察・検察の持つ「技術」を全て注ぎ込んだような「取調べ」という名の精神的な拷問によって作り上げられた検察官調書。伝聞法則、公判中心主義、そういう戦後の建

前によって立つことができず、この調書に依拠する他なかったのが地裁判決であり、そこがこの判決の最大の弱点である。

戦前、国防保安法が施行され、極悪に変えられた治安維持法が人びとの生活を覆い、戦時司法体制が構築される中で、検察官の権限が強化され、その作成した調書の証拠能力が認められた。戦後におけるその残滓が検察官調書の伝聞例外であり（あまたの冤罪の原因でもある）、大坂さんはこれによって有罪とされた。事実をもってこれを覆していくことが控訴審の課題であり、多くの学者の力でその材料は十分に準備できている。

運動の力で獄中者の命と人権を守ろう

2017年5月に大坂さんが逮捕されてから8年半が過ぎたが未決勾留は今なお続いている。昨年、大坂さんは大腸ポリープを摘出した。刑事施設にまともな医療が存在しないことは、星野さんや須賀さん、大川原化工機事件を知っているみなさんにはすでに常識だろうと思うが、検査を実施させたのは、星野国賠勝利と（須賀さんと同じように行った）医療情報開示請求が切り開いた地平だったと思う。

闘いの2026年、みなさんと共に力を尽くしたい。

「放置」する医療など許さない

星野国賠弁護士 岩井信弁護士



国は控訴審の第2回期日（昨年12月24日）において、新たに

医師の意見書を出してきました。再開腹手術するには通常3時間半かかるから、一審判決が認めたとように午後9時40分に準備を始めても手遅れだということです。これについて、私たちの協力医であるI医師は直ちに反論書を提出し、「本件でいかなるタイ

ミングでも再手術の機会はない」と主張は詭弁であり、証人医師らを信頼して手術を承諾した星野氏の期待を裏切るものであります」と述べました。

国の意見書は一番と矛盾

医療センターは、手術当日の16時52分、暁子さんに対し、「手術は無事に終わっています」と説明しました。しかし、わずか15時間後、医療センターは「全身状態悪化のため重症となりま

した」と通知してきました。いったい、「手術成功」から、急転直下「重症」になったのはなぜか。これが本裁判のテーマです。今回の意見書の作成者は福岡刑務所医務部長、一審の意見書の作成者は高松刑務所医務部医療第四課長。国は、なりふり構わず、国と雇用関係にあり、刑務所医療を擁護する立場の医師の意見書を出してきたのです。

しかも、医療センターの医師（次ページへ続く）

2022年の安保三文書のもとで進められてきた軍拡政策を加速し、年末には2年前倒しで国内総生産比2%を実現するため補正予算を成立させ、中国を敵国としたミサイル基地強化に突き進んでいる。まがりなりにも「国是」としてきた非核三原則の見直し、原子力潜水艦導入、殺傷兵器の輸出のさらなる拡大

大坂正明さん年頭メッセーヅ

戦争の危機に反戦のうねりを



戦後80年目にして、日本が直接参戦する戦争危機が最も迫った新年を迎えました。

高市自身が中国を挑発し、侵略を公然と宣言するのは、それだけやる気と自信が充満しているからです。27年開戦ではなく26年に繰り上がることもありえます。



私たちにとって26年の反戦闘争は、たとえ「牢に満つる」とも、絶対反戦を闘い抜く年です。

高市政権は今、軍事費の増額と軍備の増強をはじめ、戦争に必要なあらゆる準備を進めています。なかでもスパイ防止法策動は、反戦闘争の根絶を狙う実に凶暴な攻撃です。

8・6広島暴処法裁判において5名全員に有罪判決が出されましたが、権力はこの暴処法とスパイ防止法によって反戦行動も反戦思想をも網にかけ、全てを圧殺しようとしているのです。



1月4日の東京拘置所包囲デモには120人が集まり、絶対反戦と大坂さん奪還を誓った

今回の広島裁判は、1世紀も前に作られた暴処法が今も有効であることを示すことによって戦時司法に向けた大きな転換点になったと思います。

検察は暴処法によっていかなるデッチあげでも有罪にできると確信し、裁判所もますます判検一体を強め戦時司法として「反戦は有罪」との攻撃を強めてきます。

決戦の年、不屈に闘おう

また高市政権は、排外主義・愛国主義を煽り、戦争に必要な挙国一致・総動員体制を作りあげようとしています。そのために「不法外国人」を摘発するというのです。この外国人とは、主に中国人を指していることは明らかです。SNSでは「嫌中」が叫ばれているようです。

私たちはこのようなイデオロギー攻撃との対決も強化しなければなりません。排外主義に組織される人たちの多くは、生活苦から逃れたいとの思いからだと考えられます。生活苦は排外主義によるのではなく、その元凶である帝国主義を倒す以外にはないのだということを訴え続けることが重要です。

この戦争を目前にした情勢下で、私たち一人ひとりに求められることは、権力による凶暴な弾圧や、民間反革命の暴力が襲いかかろうと、怯むことなく粘り強く立ち向かう不屈性です。沖縄・辺野古の闘いに学んで闘い抜くことです。

不屈に闘うことが労働者民衆を揺り動かし、大きな反戦のうねりを作り出します。それを実現すれば戦争を止めることができます。

26年は真の意味で決戦の年となります。労働者民衆を揺り動かす闘いを実現しましょう。
『前進』新年号へのアピールより(転載)

(前ページ下段続き)
の証言にも相矛盾します。意見書は、手術当日の23時45分ころの血液ガス結果について、「このアシドーシスは外傷外科でいうところの大量出血末期の死の三徴(略)の部分所見」と述べて

います。しかし、当直医は一審において「このときの星野さんのアシドーシスの数値自体は重篤というようなものではありません」と真逆のことを述べていたのです。いったいどちらの医師が正しいのでしょうか。

医療放置居直り許さない

I医師が、数日間で今回の反論書を作成したのは、今回のような医療があつてはならないという医師としての使命からです。医療判例解説のコメントを書いた肝胆膵外科医が「本件医療施設で実施すべきではない手術であった」「肝切除術における術後管理の『イロハ』の『イ』から誤っていたと評価せざるを得ません」と強い口調で書いているのも、今回のような医療に驚き、呆れ、怒っているからです。本件のような「放置」する医療を認めてはいけません。今年こそ、国の控訴を棄却させる年にします。

星野国賠控訴審第3回裁判

2月13日(金) 午後3時

東京高裁717号法廷／当日は街宣を予定

星野国賠控訴審 第2回裁判

星野さん虐殺居直る意見書で 反動判決狙う東京高裁許すな

雨の中60人が一日行動

12月24日、星野国賠控訴審の第2回裁判が開かれ、全国の仲間が一日行動を闘いました。

霞が関で東京高裁包囲デモのあと街宣に移りました。冷たい雨が降るあいにくの天気でしたが、「星野文昭さん虐殺を許さない」「中国侵略戦争に突き進む高市政権打倒」「反戦闘争弾圧許さず大坂正明さん解放」を訴える多人数の街宣への注目は高く、裁判所前を通るほとんどの人が



全国から60人が集まり、星野国賠完全勝利へ霞が関を力強くデモ行進 (12月24日)

ビラを受け取り、ぜひ署名したいと申し出る人もいました。高支持率が続く高市政権の下で、危機感を抱く労働者民衆の根底的な流動が始まっていることを実感する街宣となりました。

高裁が反動的訴訟指揮

裁判は救援会が41の傍聴席を完全に埋めて闘いました。裁判長は結審を予告していましたが、12月17日に国側医師の意見書が提出されたことを受け、「新たに提出された意見書を踏まえて判断しなければならぬ」と突如として方針転換を表明。弁護側、国側双方に、国の意見書で主張される内容に基づく質問を行い、次回期日を指定しました。

国側医師の意見書は「東日本成人矯正医療センターは、弁護士が勤務するような高度な病院とは異なる一般病院なのだから、緊急の再開腹手術など望むべくもなく、死は仕方がなか

った」と、星野さん虐殺を完全に居直る許しがたいものです。高裁はこれに基づき「緊急手術を行う体制の整った大病院ではなく、普通の病院では再開腹手術の準備にどれだけの時間がかかるかを示せ」というのです。

弁護団は即刻「質問には答えるが、そもそもここまでが悪化したのは徳島刑務所の責任だ。医療も検査も全く行わなかったことは許されない。転医義務を果たさず医療センターでの手術を強行したのは国だ。ここが大前提だ」と怒りをあらわに意見を述べました。まったくその通りです。

体調不良を訴える星野さんに検査も治療もせず、がんが手に負えなくなるまで放置したのは徳島刑務所だ。万全な態勢もとらずに手術を行い、術後出血への対処すらしないなど医療ではない。星野さんの命を救おうなどとはつゆほども思わず、虐殺したのだ！これを居直り「手立てがなかった」とうそぶく国を絶対に許さない！

次回期日は2月13日。高市戦争政権による星野・大坂闘争つぶしと対決し、大衆的な闘いを組織して大反動を打ち破ろう。

弁護団報告

国の主張は詭弁だ

岩井信弁護士

国は医療過誤訴訟で使われる因果関係論に絞ってきた。再開腹手術をしても、準備に時間がかかるから、もう無理なんだと間に合わないということは、医療センターの行為と星野の死に因果関係がないから国は賠償責任を負わないという論理だ。

だが国は血液検査も腹部エコー検査もCT検査もやらなかった。手術成功と言っておいて、数時間後には「どの時点でも助けられなかった」という主張は詭弁だ。ここに本件の本質がある。判決をひっくり返させてはならない。最後まで闘います。

傲慢な訴訟指揮許さない

土田元哉弁護士

新たに出た国側医師の意見書は、証人尋問も経ていない。そんなものを調べて結論をひっくり返してくれという国の主張は、傲慢極まりない。それをもとに弁護側に釈明を求める裁判長の訴訟指揮も許せない。

ただ、裁判長は術後出血はあったという立場で質問している。輸血すらせずに放置した国にとっても厳しい状況にあることは確かだ。まったく油断できないが、医師と準備を進め闘う。



裁判の報告を行う (左から) 星野暁子さん、岩井弁護士、土田弁護士、藤田城治弁護士

国賠勝利へ 東京高裁第23民事部緊急申入行動

1月29日 (木) 午後2時

正午 日比谷公園霞門に集合し、霞が関デモ
午後1時から東京高裁前街宣行動

1万人署名で大坂さん奪還へ

渋谷現地調査と学習会で無実確信

決意新たに浦和で署名街宣に挑戦

星野さん大坂さん埼玉救援会 飯島良子

この間、埼玉救援会として3つの取り組みを行いました。

一つ目は11月15日に行った渋谷暴動闘争の現地調査です。当時を再現するため14時に代々木八幡駅に集合し、皆川さんの案内で出発。当日のデモ隊の足取りをたどり東急本店前に向かいました。54年前の闘争を実際に歩き体感することで、あらためて星野さん大坂さんの無実を確信し、その闘いの大きさと重要

性を実感することができました。

12月13日には「大坂裁判学習会」を開催しました。星野暁子さんと全国救援会事務局の杉浦文俊さんを講師に迎え12人が参加。権力にとって、渋谷闘争を闘ったリーダーの星野さん、大坂さん、奥深山さんを犯人としてでっち上げることがどうして必要だったこと、「証人」6人の学生の供述調書も拷問的な取

り調べの中でねつ造された事がよく分かり、権力に対する怒りがさらに大きく燃え上がり、闘いの決意を新たにしました。

その「勢い」で12月27日には浦和で「大坂さんは無実！ただちに解放」を訴える街頭宣伝を行いました。星野さん大坂さんが54年前に沖繩に連帯し、沖繩を二度と戦場にしないために闘ったことは正義であり、今現在、中国侵略戦争に突き進む高市政権に対し、反戦の声を上げ戦争を止めていくことが私たちの責務だと訴えました。6名が参加、1時間で10筆の署名を集めることができました。1万人署名で大坂さん奪還！ 星野国賠完全勝利へ、26年も全力で闘います。



浦和駅パルコ前で、埼玉救援会として初の大坂署名街宣に挑戦（12月27日）

絵画展

絵画と映画で反戦組織

兵庫 松井久美子

12月6日プレラ西宮にて「星野文昭&暁子 絵と詩展」を開催しました。西宮市の人権フォーラムの一企画として行われ、パ

ネル展示広場での星野絵画展（2日〜7日）、6日は部屋での絵画展にも多数来場されました。「琉球弧を戦場にすな」同「2025」や星野さんの闘いのビデオも繰り返し上映され、質疑もはずみましました。絵画展には、毎回来られる方や「恥ずかしながら初めて星野さんのことを知りました」とお話をしていた方もおられ、今の高市政権の戦争政策に対する不満や不安、

大坂正明さん解放求める署名が 韓国のイドクチェさんから届く



12月18日、東京・新橋の救援会事務所に無実の大坂正明さん解放を求める署名が国際郵便で届きました。韓国のイドクチェさんが中心となって集め、送ってくださいました。星野文昭さん解放の闘いで作り上げた国際連帯の力が、大坂さん解放を求める力として発展しています。控訴審開始までに1万人署名を絶対に集め、裁判所に迫ろう。



怒り等を声を大にして語られる方もいました。パネル広場ではどのようにし

て冤罪（権力犯罪）が生まれたのかのパネルや、星野さん・大坂さんの闘いの歴史をじつと長く見つめる来場者の姿が印象的でした。小さな部屋での絵画展でしたが、多くの来場者とお話でき、充実した1日でした。大坂署名も行い、星野カレンダーも販売しました。「琉球弧を戦場にすな」を最後まで見られた方は12月20日の大行進主催の「怒りを解き放て！ 極右・戦争突撃の高市倒せ！ 反戦討論学習会」にも参加されました。（婦人民主クラブ）阪神読者会・たんぼほの会

インフォメーション

■三里塚新年デモ&団結旗開き

1月11日(日) 午前10時 東峰神社しめ縄
午前10時30分 南台農地集合、デモ
正午 団結旗開き 芝山町・やすらぎの里
(千葉県山武郡芝山町飯櫃126-1)

主催 三里塚芝山連合空港反対同盟

■大坂さん奪還!東京高裁前街宣

1月22日(木) 午後1時 東京高裁前
主催 無実の政治犯 星野さん大坂さん全国救援会

■国鉄1047名解雇撤回!東京高裁裁判・デモ

1月23日(金) 午後2時 日比谷公園霞門集合、デモ
午後3時30分 東京高裁101号法廷

■柏崎刈羽原発の再稼働阻止!新潟デモ

1月25日(日) 午後2時 万代市民会館6階大ホール
(新潟駅北口徒歩6分)

午後3時10分 デモ行進

主催 改憲・戦争阻止!にいがた大行進

■星野国賠勝利霞が関デモ・高裁申入行動

1月29日(木) 正午 日比谷公園霞門集合、霞が関デモ
午後1時 東京高裁前街宣
午後2時 東京高裁申入行動

主催 無実の政治犯 星野さん大坂さん全国救援会

■米日の中国侵略戦争阻止!高市政権たおせ!新宿反戦デモ

1月31日(土) 午後2時 新宿駅東口駅前広場
午後3時 デモ出発(新宿駅一周デモ)

主催 改憲・戦争阻止!大行進東京

■星野国賠控訴審第3回裁判

2月13日(金) 午後3時 東京高裁717号法廷



「暁子の絵を飾った、誕生日のテーブル」

絵 星野文昭 2007年制作

勝気な私の顔を描いた絵が、誕生日を祝うテーブルに飾ってある。自分では勝気だと思ふことはあまりないが、文昭は私の本質をそうとらえて、「アフガン、山の学校で学ぶ」少女にも、それを投影している。

星野暁子

星野・大坂控訴審勝利へ 裁判費用300万円 カンパを訴えます

昨年12月24日に行われた星野国賠控訴審は、星野文昭さんを獄死に追いやった徳島刑務所の責任はおろか、虐殺した医療センターの責任すら居直る国の意見書が出され、これに基づいて裁判所が審理継続を宣言する重大な事態となりました。「医療センターでの再開腹手術は、そもそも無理だった」という主張が、どうして許されるのか。人の命を何だと思っているのか。怒りに堪えません。これが東京高裁か!と、誰もが実感したと思います。

この大反動を、法廷の外で打ち砕く闘いを組織するとともに、法廷内での国のデタラメな主張を許さない、弁護側専門医の反論をさらに準備して闘い抜きます。

大坂正明さんの控訴審闘争も、この東京高裁を相手に事実調査を行わせる闘いです。裁判所を追い詰める控訴趣意補充書をさらに突きつけ、闘います。

訴訟費用を賄う300万円カンパをお願いします。

郵便振替口座：00140-7-635858

口座名：星野・大坂全国救援会

〒105-0004 東京都港区新橋2-8-16 石田ビル4階

TEL 03-3591-8224 FAX 03-3591-8226

Email: hoshinoosaka@ymail.ne.jp

※救援会の口座はゆうちょ銀行です。

大坂裁判パンフレットで 大坂さんの無実を学ぼう

控訴審開始までに何としても1万人署名を集め、東京高裁に事実調査を行わせよう。

街頭で演説するとき、署名に立ち止まった方に説明するとき、大坂さんは無実との確信固く提起できる中身が詰まったパンフです。



★1部500円(署名用リーフは無料)

★写真やでっち上げ調書に添付された図面をふんだんに使い、1審の裁判で明らかになった「大坂さんが無実である」という事実をわかりやすく解説します

★大坂さんの無実を訴え、解放を求める署名をどんどん集めよう。東京高裁に事実調査を行わせよう